

無断複写・引用・配布厳禁
Do not copy, cite or distribute
without permission

趣旨説明

京都産業大学 経営学部 教授

宮永 健太郎

Kentaro MIYANAGA

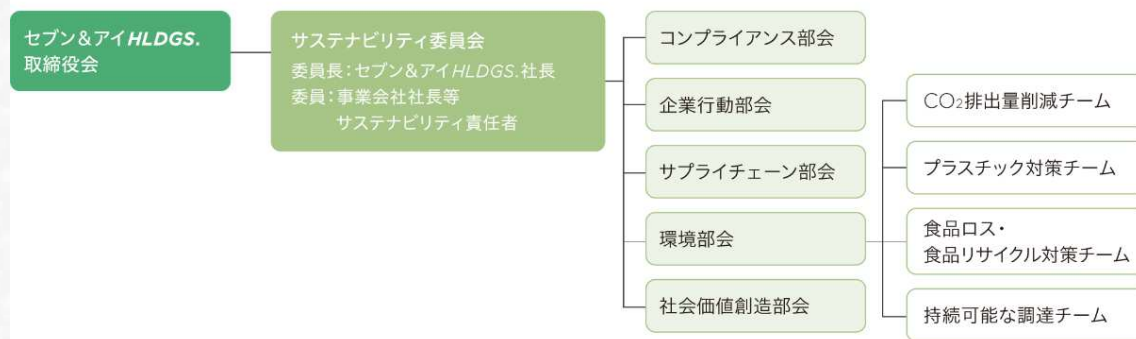
miyanaga@cc.kyoto-su.ac.jp

セミナーのテーマ要点

- **生物多様性問題**は、現代の主要な環境問題の1つであり、社会の**サステナビリティ**実現に向けた主要な取り組みテーマの1つ。生物多様性保全（≒ネイチャーポジティブ）の基本的な方向性や仕組みは**世界レベル**で決められ、**国レベル**でもそれに沿った制度的基盤整備が進む（気候変動対策と似たプロセス）
- そんな「生物多様性」が近年、**「経営」「会計」「ファイナンス」**といった言葉との結びつきを強めつつある。ビジネス界では、サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルと並び、**ネイチャーポジティブ**がサステナビリティ経営の合言葉に
- 昨今のサステナビリティ経営のトレンドは、**サステナビリティ情報の開示**（「ESG情報」「環境や社会が企業に与える影響」「企業が環境や社会に与える影響」・・・）。その1つの原動力は、投資家や金融機関側からの要請（**非財務情報**が投資・融資に占める重要性の高まり）。**情報開示枠組みの世界的な制度化・収斂化**も進む
- カーボンニュートラル領域で先行していたこれらの波が、ついにネイチャーポジティブ領域へ到来。その軸は**「TNFD」**という情報開示枠組み。ポイントは「①ガバナンス ②戦略 ③リスクとインパクト管理 ④指標と目標」という4本柱「バリューチェーンやロケーションを重視した情報開示」など
- 日本は世界随一のTNFD大国。現時点では**大企業**や**金融機関**が中心だが、**中小企業**も他人事ではない。ネイチャーポジティブを無視すれば**「取り引きしてもらえなくなる」「融資してもらえなくなる」**リスクも出現。そもそもサステナビリティ経営は、環境保全のためだけでなく、ビジネス（会社を存続させ利益を生み出していく）のため
- 紙・ごみ・電気はやり尽くした。地球温暖化だって意識している。その上さらに生物多様性に取り組むなんて可能なのか。ただでさえ原材料費高騰、光熱費高騰、人材不足で苦しいのに・・・**この先、滋賀の企業や金融はどうする？**

TNFD「①ガバナンス」の一例

サステナビリティに関するガバナンス体制



自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に関する組織のガバナンスを提示する

固定報酬 (50%)		変動報酬 (50%)			
確定報酬 (50%)	個人業績連動 (10%)	財務指標連動 (20%)		サステナビリティ指標連動 (20%)	
		営業利益実績連動 (10%)	ROE連動 (10%)	環境経営指標連動 (10%)	従業員エンゲージメント指標連動 (10%)
金銭報酬 (70%) 短期			株式報酬 (30%) 長期		

※ 上記の図は業績目標達成率を100%とした場合のモデル。すべての業務執行取締役で共通の報酬構成

出典 (上) : セブン&アイHLDGSホームページ
出典 (下) : 上新電機ホームページ

TNFD 「②戦略」の一例

重要原材料と選定した3原材料の自然への依存・影響評価*

Very High High Medium Low, Very Low, No Data

	影響										依存																							
	土地利用		資源採取		気候変動		汚染				外来種等	供給サービス				調整サービス							文化的サービス											
農作物 (上流)	陸域利用	淡水域利用	海域利用	水資源	その他資源	GHG排出	大気汚染	水質汚染	土壌汚染	固形廃棄物	攪乱	生物学的変化	動物エネルギー	繊維など素材	遺伝物質	地下水	地表水	生育地の維持	花粉媒介	土壌の質の維持	換気機能	水量の調節	水質の維持	分解機能	希釈機能	ろ過機能	知覚刺激の緩和	質量流量の調節	気候の制御	伝染病の抑制	洪水暴風の抑制	浸食の抑制	害虫の抑制	
コーヒー豆	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High
大豆	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High
米	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High	High

* ENCOREの出力結果に加え、社内情報、各種データ、学術論文をもとに作物ごとの影響度・依存度を特定

自然関連の依存、インパクト、リスク、機会が、組織のビジネスモデル、戦略、財務計画に与える影響を開示する

バリューチェーンにおいてマテリアリティが「高い」または「非常に高い」生態系サービス、インパクト要因の一覧 (ENCOREで「高い」または「非常に高い」結果となったもの)

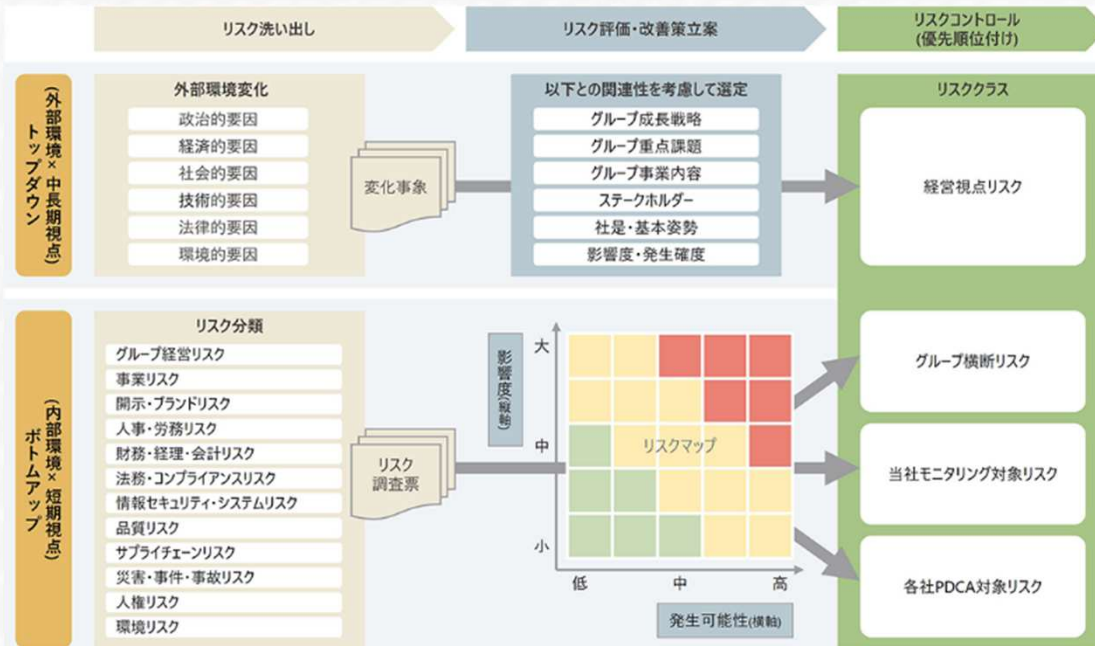
プロセス	川上			川中			川下
	投入財	原料採取	基礎製品 (建設資材含む)	中間製品	最終製品	店舗建設	販売・サービス 再利用・廃棄
生態系サービスへの依存	該当無し	地下水 地表水 気候調整 水循環システム	地下水 地表水	該当無し	該当無し	気候調整	気候調整
インパクト要因	生活妨害 温室効果ガスの排出 温室効果ガス以外の大気汚染物質 土壌汚染物質 固形廃棄物 水質汚染物質 水利用	生活妨害 淡水生態系の利用 温室効果ガスの排出 海洋生態系の利用 温室効果ガス以外の大気汚染物質 土壌汚染物質 固形廃棄物 陸域生態系の利用 水質汚染物質 水利用	生活妨害 淡水生態系の利用 温室効果ガスの排出 海洋生態系の利用 温室効果ガス以外の大気汚染物質 土壌汚染物質 固形廃棄物 陸域生態系の利用 水質汚染物質 水利用	温室効果ガスの排出 土壌汚染物質 固形廃棄物 水質汚染物質	土壌汚染物質 水質汚染物質	生活妨害 淡水生態系の利用 温室効果ガスの排出 温室効果ガス以外の大気汚染物質 土壌汚染物質 固形廃棄物 陸域生態系の利用 水質汚染物質 水利用	生活妨害 温室効果ガスの排出 温室効果ガス以外の大気汚染物質 土壌汚染物質 固形廃棄物 水質汚染物質 水利用

特にマテリアルなプロセスと依存・インパクト(影響)

プロセス	川上	川中	
	原料採取	店舗建設	販売・サービス
インパクト要因	石油・ガス掘削	店舗施工	流通
	温室効果ガスの排出 海洋生態系の利用 水質汚染物質 水利用	温室効果ガスの排出 陸域生態系の利用 水利用	温室効果ガスの排出

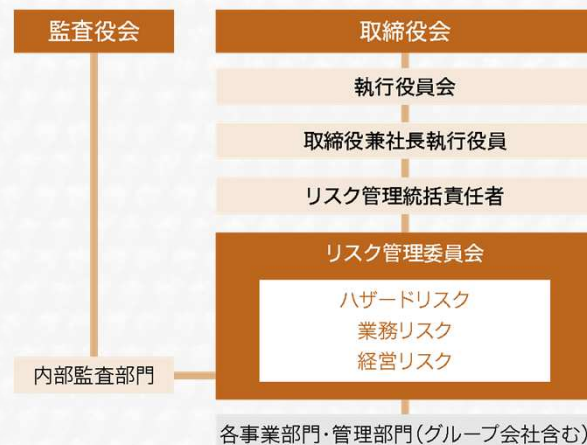
出典 (上) : セブン&アイHLDGSホームページ
出典 (下) : 上新電機ホームページ

TNFD 「③リスクとインパクト管理」の一例



自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位を付け、管理するために組織が用いているプロセスを記述する

リスク管理体制



出典 (上) : セブン&アイHLDGSホームページ
出典 (下) : 上新電機ホームページ

TNFD「④指標と目標」の一例

持続可能な調達(国内)



依存・インパクトに関する指標

依存・インパクト	TNFDグローバル中核開示指標			当社にて適用する指標(案)
	番号	指標	測定指標	
インパクト 侵略的外来種 (海外から入荷した商品 や消耗品・備品等への 付着)	C4.0	プレースホルダー指標: 侵略的外来種の非意図的 導入に対する対策	侵略的外来種の非意図的導入を防止する、適切な対 策の下で運営されている高リスクの活動、または低リ スクの計画された活動の割合。	<ul style="list-style-type: none"> 外来種の持ち込み防止のための、荷物のチェックの回数 その他、外来種の導入を防止する取組の実施有無(出荷元の対策状況の調査、海外製品の入荷時の確認体制強化、等)

リスク・機会に関する指標

リスク・機会	TNFDグローバル中核開示指標			当社にて適用する指標(案)	
	番号	指標	測定指標		
リスク 台風、土砂崩れ、猛暑、洪水等の自然災害による拠点の被害	C7.1	自然関連の物理的リスクに対して脆弱であると評価される資産、負債、収益および費用の金額(合計および合計に占める割合)。	自然災害に脆弱と評価される拠点の割合(拠点数、資産価値、収益等から算出)	<ul style="list-style-type: none"> 当該年度に発生した自然災害による損失額 	
	C7.2	海外から入荷した商品への外来種の付着・持ち込み	自然関連のマイナスのインパクトにより当該年度に発生した多額の罰金、料料、訴訟の内容と金額	<ul style="list-style-type: none"> 外来種の持ち込みリスクがある商品による収益の割合 当該年度に発生した外来種の持ち込みによる損失額 	
機会 災害リスクへの対策による競争力強化	C7.3	外來種の持ち込みリスクへの対策による競争力強化	環境に配慮した商品の取り扱いによるブランディング、環境配慮製品の需要増加への対応力向上	関連する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然関連の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額。	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害リスク対応への投資額
				原材料採取・製造プロセスの自然へのインパクトを考慮した、サプライヤーの見直しによる競争力の強化	自然に対して実証可能なプラスにインパクトをもたらす製品およびサービスからの収益の増加とその割合、ならびにそのインパクトについての説明。

自然関連の重要な依存、インパクト、リスク、機会の評価と管理に使用する測定指標とターゲットを開示する

出典(上) : セブン&アイHLDGSホームページ
出典(下) : 上新電機ホームページ

セミナー後半のディスカッション：トークテーマ（予定）

【1】 生物多様性問題や地球温暖化問題の深刻化によって、そして世界や国のさまざまな動きによって、ビジネスの現場では具体的にどんなことが起こりうるのか？

【2】 生物多様性問題や地球温暖化問題の深刻化によって、そして世界や国のさまざまな動きによって、金融機関は今後どう変わっていきそうか？ そしてそれは、貸出先の企業（ビジネス）にどんな影響をもらたすか？

【3】 どうすれば、ネイチャーポジティブとカーボンニュートラルのシナジー（相乗効果）は進み、トレードオフ（二律背反）は避けられるか？ その際、企業（ビジネス）が心がけるべき点は何か？

【4】 こうした諸状況のもと、滋賀の企業（とりわけ中小企業）は、まず何から手をつければよいか？